

大会速報

国労水戸地方本部
第71回定期大会
速報

全組合員で組織強化拡大へ

皆川代議員（水戸分会）

社員代表選では代表にはなれなかったが組合員以上の票を取った。普段の関わりや会社社に不満を持つ人がいる。



分会レクで若手社員の呼びかけや、職場の実態を交流してきた。年々参加者も少なくなってきた実態もある。

る。

マルタイの台数が減少しエリア変更で他支社へ行くこともある。まわりの組合員は事故等を考えたと辞めたいと言う声もある。

門馬代議員（いわき分会）

分会では毎年、退職者激励会を開催してきた。エルダー希望の条件に合

わず残念ながら2名が退職した。常磐線全線開通に向けて運輸区班から原ノ町へ配転になった。会社の用意したアパートへ、単身の2重生

活になる。本人の希望となるようにお願いしたい。

全線開通で放射線に不安が、緊急時の連絡体制、線路内の動物侵入時の対応に

問題がある。

3つの駅業務では泊り勤務から日勤勤務に変更になった。券売機故障の対応や防犯に対して問題があり、何かあると近くに住んでいる社員を呼び出している。



友部代議員（水戸分会）

台風時、若手社員が列車が動かないのでバスを利用して出勤した。事故等を考え教育が必要と思った。勤務解放時、交通手段がない状況に対応を考えてほしい。

試験制度について以前と比べて何度も受けているが受からない、厳しくなっている。若い人と酒飲みやゴルフ

を誘い交流している。



書記長集約

平和と民主主義を守る闘いについて、平和運動、総がかり行動、憲法改憲、労働法制改悪と各種行動を取り組んできた。

各選挙で組織内候補を勝ち抜き、反原発・脱原発、戦争をさせない国づくり、各種行動に取り組む。

常磐線全線開通に向けて、雇用の確保、労働条件改善に向けて奮闘してきた。

東日本大震災、福島第一原発事故から多くを学び、被災によって雇用を失えな

い。生活基盤を絶えさせない。職場の確保をしてきた。国労として、公共交通としてのライフライン、国民の足を守る責任もある立場で会社と認識を一致させ、現場で働く労働者のため、労働組合のチェック機能として取り組んできた。

全線開通前、開通後も関係分会を中心に、プロジェクト会議等で職場・生活環境確保を目指し、申し入れを行っていく。

風化させない取り組みとして、国労フクシマに最大限の結集をしていく。

2020春闘について、これまで一職場一要求、対





話行動の強化として指令を出した。

組織拡大と連動した、社員代表選の取り組み、今できること、国労にしかできないことを行う。

反合理化、労働条件の改善の闘いについて、職場要求、ダイヤ改正に対して申し入れ交渉を行ってきた。

地本、分会、職協の連絡体制を密にし、要求集約を取り組むとともに現場主義に目線を合わせる。

エルダーの労働条件改善、安全を脅かす外注化施策に対して要求をしていく。

JESS、水戸管区の代表選の取り組みを土浦、いわき管区でも提起したい。

試験制度、賃金制度の意識改革でプロパー社員の壁となる。丁寧な対応、社員目線の取り組みが求められる。

JR貨物の合理化は旅会社を一体となった施策学習会を行っていく。

組織強化拡大について、様々な取り組みを行ってきた。

点から線、そして面へと組織全体への取り組みを、昨年以上に分会、班活動を

強化していく。

まだ職場活動交流会は行われていません。設備関係は8月に研修から職場に入ってくる。職場で仕事を通して、信頼関係を作り、それぞれの各職場で取り組んでもらいたい。

本体の組合員数は減ってきている。やり残しのない歴史を作っていくかなければならない。

国労本部が示した方向性と課題について、将来について付託をしてきた。

日々変化し組織人数が減少している事を改めて認識

新執行部

執行委員長	久保田 重明
執行副委員長	埜 正人
書記長	赤沼 廣行
執行委員	大賀 泰男
	坂下 司
	泉 俊秀
	黒沢 一文
	塩澤 一富
	大津 勝洋
会計監査	大貫

する。議論できる場が必要と言われている。国労運動を継承していく

ため、組織拡大に向け総団結、総決起で全組合員に要請します。

新役員

会計監査

大貫 洋一 (大子分会)

退任

猪狩 文男 (水戸分会) 執行委員

坪井 昭光 (勝田分会) 会計監査

大変ご苦勞様でした

永年役員表彰

機関紙表彰

永年役員表彰

菊池 忠志 (大子分会)

高野 裕司 (土浦分会)

一条 英正 (土浦分会)

機関紙表彰
貨物分会

